

# 序

## ◆抗菌薬の時代の終焉？

『タイム』誌と『ニュースウイーク』誌は“抗菌薬の時代の終焉”の到来を告げた。多くの感染症および健康政策の専門家の憂慮に呼応して、『シカゴ・トリビューン』誌の特集記事，“不健康な病院（unhealthy hospitals）”は、「抗菌薬の乱用は薬剤耐性菌を引き起こし、これが病院からコミュニティへ未曾有の速さで広がっている」と警告した。パンコマイシン耐性腸球菌（VRE）、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）は今やわれわれの入院患者ではよくみられるようになり、市中感染する強毒性のMRSA（cMRSA）が高校生や大学生の運動選手に感染している。超多剤耐性結核菌（XDR-TB）感染者は南アフリカでのアウトブレイクでほぼ100%の死亡率であった。新たに発見されたSARS、鳥インフルエンザ、エーリッキア、ライム病、ウエストナイル脳炎などがわれわれの健康に対する脅威として立ち現われてきている。マラリアは依然として世界の多くの場所で死亡原因の上位を占めている。炭疽菌を郵送することで引き起こされた2001年のバイオテロリストの攻撃は、医療従事者がこのほとんど忘れ去っていた病原体の症状やその他の大量破壊兵器として用いられ得る病原体の症状について認識する必要性が非常に高いことを示した。AIDSの流行はサハラ以南のアフリカで壊滅的であり、アジアや旧ソビエト連邦では警戒すべき速さで広がっている。抗レトロウイルス療法に耐性のあるHIVは米国とヨーロッパで増加している。長い間原因が感染ではないと信じられてきた疾患が、今では微生物がその原因であると確認されている。感染症は世界の最も大事な優先されるべき医療の1つとして再興してきており、21世紀の要求を満たすためにも、医療提供者は臨床感染症のしっかりとした土台をもっていなければならない。

## ◆第2版の特徴

本書は臨床感染症学の原則に基づいたしっかりとした土台を読者に与えるための、30日で終えることのできるチュートリアルとして企画された教科書の第2版である。本のタイトルは『Infectious Disease in 30 days』から『Infectious Diseases : A Clinical Short Course』へと変更になったが、われわれの本の企画と意図は変化していない。タイトルが強調するように、忙しい臨床医、医学生、ナースプラクティショナー、フィジシャンアシスタントがよくある感染性疾患を理解し、診断治療できるように、われわれはこの重要な分野の簡潔な概説を作った。

感染症学の分野をマスターするのは気が遠くなる話で、多くの教科書は1,000ページ以上の長さである。それぞれの章に割り当てられる日数を示すことでわれわれはそれぞれの

レッスンを終えるためのスケジュールを作った。そのつど小さいステップを登るようにすることで、一見難しそうな課題をより容易に達成することができる。この本は30日以内に完了することを可能にするためにページ数を抑えた。これは臨床的評価、抗菌薬の用量、薬剤の毒性などを要約する一連の表を作ることにより可能であった。これらの表は暗記しなくともよいが、患者を診るにあたっては参照する必要がある。

章は可能な限り臓器別に並んでいる。というのはこのようにして臨床医は感染症に遭遇するからである。第1版と同様に、読者が本文を読み進めるときにアクティブに問い合わせができるように各章のはじめに「指針となる質問」を掲載している。経験の少ない臨床医がどのようなスピードで診療をはじめるべきかについて感覚をつかめるように、おののの疾患の「潜在的な重症度」を評価した。各疾患を扱うときに臨床医が知っておくべき重要な事実を強調するために「Key Points」は下地に色をつけた枠に入れて掲載した。可能な限り、簡潔な表によりマネジメントへのアプローチおよび病態生理の原則を要約した。すべての章は現行のアメリカ感染症学会（IDSA）の診断、治療ガイドラインを反映させるようにアップデートされ、最新の参考文献が各章の末尾に記載されている。われわれの目標は医療提供者の感染症への理解を改善させ、感染症をマネジメントする最新のアプローチを提供することである。われわれは感染症の原則と、抗菌薬の慎重な使用を教える教育的キャンペーンを皆で協力して行うことを通じてのみ、“抗菌薬時代の終わり”を予防することができると固く信じている。